

杉並区立西田小学校 令和元年度第6回 学校運営協議会記録

- ・日時 令和元年 11月15日(金) 17時00分から18時40分
- ・場所 図書室
- ・出席者 諏訪会長、成田会長職務代行
鈴木校長、恵羅委員、渡邊委員、目黒委員、望月委員、山内委員、
【事務局】新井副校長、濱元(記録)
- ・配布資料 資料1 令和元年度第6回学校運営協議会次第
資料2 令和元年度第5回学校運営協議会記録
資料3 校長室便りNo6
資料4 ESD大賞申請書類
資料5 西田英語村プロジェクト(後期)について
資料6 教育調査(保護者用)
資料7 教育調査(5・6年生用)

1 会長挨拶

・ESD大賞受賞、素晴らしい。この大賞受賞をこれからどう生かすか。今後しばまぬように委員も知恵をしばっていききたい。今夜のトワイライトミュージアムも楽しみである。

2 校長挨拶

・650名の作品が一堂に会した。トワイライトミュージアムの実施では、親子が会話をしながらできる環境は素晴らしい。学校支援本部の協力が大きい。

外遊びのことを学校だよりに書いたら、外遊びが増えてきた。短縄朝会をしたら高学年も外遊びが増えてきた。外遊びの励行を呼び掛ける教員、一緒に外遊びをする教員がその陰にある。教員の力は大きい。ESD大賞はここまで4年の積み重ね。のちほど新井副校長より申請の詳細を述べる。11月30日に福山市立大学で受賞式あり。5名の教職員で授賞式に臨む。

<「校長室だよりNo.6」から>

来年度はオリンピック・パラリンピックの年になる。イレギュラーな年になる。また新学習指導要領の実施に向けて、研究推進部を中心に進めていく。地球人としてグローバルな視点で物事を考える子供たちを育成したい。

子供たちの実態として、いろいろとやってもらいすぎている子もいる。自立する子を目指す。

教職員が「西田小で勤務をしてよかった」と言える西田にしていく。自分たちでいい職場にしていこうとする風土、教職員の関係づくりをしていく。

学年の話し合いを密に。学期中の会議は減らす。理科チームティーチングを家庭科専科に変更する。など、この時期から来年度を見通して考えていきたい。

3 前回議事録の承認

訂正 9月21日→10月21日渡邊委員より

4 ESD大賞について【新井副校長】

本校は毎年報告書を出していた。報告書には①総合的なSDGsの学び、②児童の価値観の変容、③教師の指導観の変容、を柱として述べた。

資料として以下5項目の提出をした。指導計画、研究授業の実際、教員の変容グラフ、ESD子供報告会の様子、ホールスクールアプローチの様子。

ESD大賞は文部科学大臣賞、小学校賞などがある。「発信力」「SDGsへの取組」「学校力向上」が受賞理由。ESDやESD大賞について、保護者の方にもご理解いただく必要がある。学校だけが頑張ってもうまくいかない部分がある。保護者の方への周知をし、よりよい学校、地域づくりをしていきたい。

大賞の報告は今後、杉並区、東京都にも報告をしていきたい。

【主な意見】

- ・ 諏訪会長：1度小学校賞をとると、大賞は獲れないのは残念。今回の活動を小冊子やリーフレットで学校にいらっしゃる方に配付できたらよい。
- ・ 鈴木校長：学校要覧も改訂する。
- ・ 新井副校長：SDGsのシンボルマークの缶バッジを子供たちに配りたい。手作業になる。
- ・ 鈴木校長：胸元にSDGsのバッジを付けている人が増えた。
- ・ 諏訪会長：ANAのキャビンアテンダントは全員が付けていた。影響力は大きい。
- ・ 新井副校長：教職員は実際のバッジを配付したいと考えている。ただ高額なのが課題である

5 西田英語村について

英語でのやりとりを生かすことも大切にしているが、何かをしてもらったらありがたいの思いを表現できるか、英語であろうがなかろうが大切にしたい。

【主な意見】

- ・ 鈴木校長：英語を流ちょうに使えることを目指すものではなく、これまでに慣れ親しんだ表現が「使える」と感じられる体験をこの西田英語村で味わわせたい。英語でやりとりするのが楽しいな、を味わわせたい。相手の表現に応じたやりとりができるといいと考えている。
- ・ 望月委員：前期を見させていただいた。協力していただいた方が熱心なあまり、子供たちを追い込んでいないかは心配。
- ・ 恵羅委員：英語は日常のものだから、必要に迫られてしゃべる機会があるのが理想的。イベントで英語を教えるのは無理。西田英語村はイベント・お祭りであってよい。これが刺激になるきっかけになるといいのではないか。
- ・ 山内委員：私もこの英語村で身に付くというのは難しい。4年生でもお祭りがあってもいいと考える。
- ・ 鈴木校長：来年度は3、4年生も週1時間の活動が始まる。さらに広げる必要がある。
- ・ 諏訪会長：5、6年生がやっているのを3、4年生が見学するのもいいのではないか。
- ・ 望月委員：前回拝見してよかったのは、やりとりに挨拶や「ありがとう」があったこと。日本語でも言えてない子も多いことから、よいきっかけになる。家庭でも「ありがとう」と言っているか普段から疑問に思っている。
- ・ 恵羅委員：まずは言えることを言ってみる。伝えたいことを考えて言おうと思ったら、調べなくてはならないし、会話はできなくなる。今の言えるスキルで言ってみるのが大事。英会話のきっかけであれば

よい。文法通り言えなくてもいい。片言でも、単語でも言えばいい。伝わる。これが生きたコミュニケーションである。

6 子供の様子について

現在不登校状態の児童が3名いる。教室にずっといられない状態の子が数名。

にした教室に通っている子が19名。複数で可能な子や一対一対応でないと集中しにくい。

様々な子供たちの言動に応じて空いている教員がすぐに応援に行けるようにしている。教員の助け合いで学級の荒れは防げていると考える。ただ、これらの児童が教員の頑張りだけで教室復帰ができるかというところではない。家庭を支え、補うべく、関係諸機関と連携をし、教職員も含めて誰もが知っている状況をつくっているところである。

にした教室には子供が大勢いないので、落ち着く。教室に戻ると、がやがやして落ち着かなくなってしまうことが多い。各学級には様々な個性がある子供たちがいる。それら全ての子供が学校での生活を円滑に行えるよう、教職員が力を合わせているところである。初期の対応が大切であり、素早い対応を教職員一同心掛けている。

7 教育調査について

プリント参照・CS委員マークシートを記入した。

【主な意見】

- ・諏訪会長：記入をしてみて、CSのときだけ来ているだけでは、中学とのつながりなどはわかりにくい（答えにくい）。担任のことは分からない。
- ・望月委員：学校に来て、授業の様子などを見ると、よく分かってくる。今後も授業参観などを行ってきたい。
- ・鈴木校長：特別支援教室（にした教室）は19人の児童を2日でみる。一人のお子さんを多くて2時間指導する。桃二小より担当教員が6名来て指導にあたっている。にした教室に来て落ち着かない児童もいる。今年度から中学校でも特別支援教室が設置された。
成長すると改善する面もあるが、大きく成長したことで発現する症状もある

8 その他 各委員から ～PTAの在り方について。委員の皆様はどうお考えか。～

- ・目黒委員：非会員が増える傾向にあると考えられる。それならば、会費だけは徴収する必要があると思う。学童クラブの児童が増えている状況から、保護者の就労も増えていることがうかがえる。教員も学校の棚卸し同様、PTAも活動内容の精選を考えていく頃では。
- ・恵羅委員：これまでのPTAの概念をなくし、できることをやる、やれることをやる組織でよいのでは。不公平感というのが理解しがたい。非会員はPTAの恩恵を受けられないのは当然。学校を支えたいという意思をもつ会員向けのサービスだけでよいのでは。学校からの情報はPTA会員・非会員の区別には関係がない内容であるため、全員に伝わるようにすればよいのではないか。
- ・望月委員：PTAのPからの声は聞こえてくるが、Tからの声が聞こえてこない。
- ・諏訪会長：150年前から変わらなかった学校が変わる時期にきた。PTAの姿も新しい形になる必要がある。情報収集を進めて好ましい形にしていきたい。

- ・鈴木校長：学校と執行部がもう少し、話し合いをしていく必要がある。保護者も教職員（学校）も学校をよりよくしたいと願っているはず。そのためによりいい機能を果たせるといいのだと思う。

9 事務連絡 今後の予定と活動について

- ・11月23日 西田の丘フェス実施。
- ・11月28日 幼保小の交流（給食を食べて小学校を体験）
- ・12月14日 震災救援所訓練

<次回の予定>

- ・12月16日が次回の学校運営協議会。16：00～17：30の開催予定。